

『科学』に思いを込めて

サイエンスソリューション部 主席コンサルタント

小野 耕平

1 『科学』で社会と産業の課題解決に貢献

「『科学』を活かして、お客さまとともに、より良い未来を創造する」。これは、サイエンスソリューション（以下、SS）部のビジョンであり、この『科学』という言葉には、科学的知見、科学技術、計算科学等、科学に関する全ての思いが込められている。

SS 部は、シミュレーションソフトウェアの開発販売、解析エンジニアリングサービス、科学技術動向調査を主な事業として、都市防災、地下空間、海洋利用、水素・燃料電池、ものづくり、化学・バイオ・素材・ナノテクノロジー、機械・防災、社会安全、産業保安等の様々な社会・産業分野のお客さまの課題解決に取り組んでいる。

2 SS 技術戦略マップ策定 WG の活動

我々は、主柱事業の強化や新規事業テーマの探索・創出を目的にして、2019 年度に SS 技術戦略マップ策定 WG を組成し活動を開始した。本稿では、SS 部の次世代の『科学』と事業を担う入社 1～7 年目の中堅・若手社員を中心に、議論と作業を積み重ねた 3 つの成果について紹介する。

① 先端科学・技術俯瞰図

現在～未来における様々な社会課題を解決するために必要とされ、社会や産業にイノベーションを起こすことが期待されている先端科学・技術動向全体を俯瞰してみることで、組織と個人の知見や興味がどこにあるのかを把握、共有し、継続的に基礎知識や知見を維持・向上・拡大することを狙いとした。

具体的には、「第 11 回科学技術予測調査 デルファイ調査」¹⁾で整理・分類されている、キーワードを起点として、メンバー個人が注目あるいは重要と考えるキーワードや技術（注目キーワード）を抽出。注目キーワードに対して、技術注目度と市場注目度の 2 つの整理軸で点数化して、「先端科学・技術俯瞰図」（669 注目キーワード）を作成した。

② SS 技術戦略マップ

自社事業の視点から先端科学・技術俯瞰図と関係

付けることで、SS 部の個人の興味と組織の事業が、世の中の科学技術動向の中で、どの程度の範囲と深さの知見を有しているのかを個人が認知し、組織として共有することを狙いとした。

具体的には、先端科学・技術俯瞰図から特に注目度の高いキーワードをスクリーニングして抽出し（146 注目キーワード）、再度、個人が注目するキーワードを複数選出して概要説明書を作成するとともに、技術注目度と市場注目度を整理軸として「SS 技術戦略マップ」（60 注目キーワード）とした。

③ SS10 大注目技術

WG メンバーが今後興味を持って取り組める注目キーワードに関する技術解説書を作成することで、将来の事業化のための関連情報の収集、分析、文書作成などのスキル向上を図り、当該キーワードに関する知見を深化させることを狙いとした。

具体的には、SS 技術戦略マップのキーワードから、1 つを選定し、「SS10 大注目技術」として、社会・政策、技術、産業・市場動向、SS 部の取り組み等に関する技術解説書（14 注目キーワード）を作成した。

3 新しい『科学』の獲得を目指して

先行きが不透明で将来の予測が困難な VUCA の時代において、急速に変容する社会・産業の課題解決に『科学』で貢献し、組織として存続・発展するためには、組織と個人の専門力を向上しながら、主柱の事業領域を強化するだけでなく、新しい『科学』を獲得し新しい事業を創出していくことが大切である。

今回は、個人の注目キーワードに焦点を置いた活動であるが、上述の成果だけでなく、組織戦略面でも多くの気づきを得ることができた。SS 部の中長期の成長へ繋げるためにも、今回の WG 活動のような、新しい『科学』の獲得に継続的に取り組み、お客さまとともに、より良い未来を創造していきたい。

引用文献

- 1) 「第 11 回科学技術予測調査 S&T Foresight 2019 総合報告書」、NISTEP Report No.183, 2019 年 11 月, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター